

どんな状況であっても「減災」の学びとアクションを止めないために減災ラボは、新しい減災教育プロジェクトをスタートしました。今まで日本各地で実践してきた防災教育プログラム「my 減災マップ」をバージョンアップし、対面でみんなで集まっても、オンラインで自分の家からでも、「自分のこと」として、災害の備えを学ぶことができるように配慮しました。これまで「my 減災マップ」で培ってきた災害リスクを楽しく学ぶノウハウを、オンラインに活かそう！という3つの試みを紹介します。

リアルとオンライン、開催形態に関わらず学べるようにアップデートしました！

自分でつくる！

災害リスクを楽しく学べるプログラム
my 減災マップ®

手描き版

クリアファイルにマップを入れて危険個所などを描きこむ オリジナルのマップを作り、身近な災害リスクを理解するワークショップ

NEW

デジタル版

国土交通省Webで公開されている「重ねるハザードマップ」を使い身近な災害リスクを理解するワークショップ

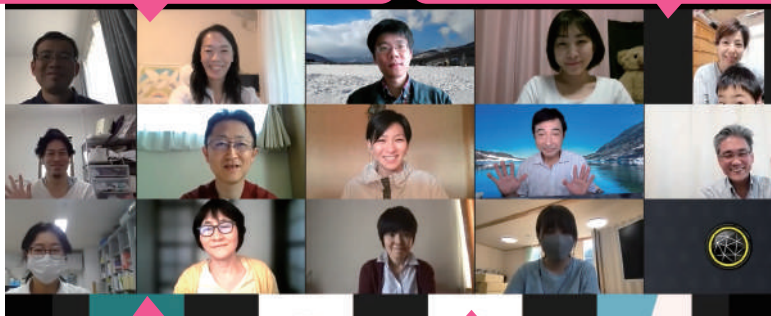
オンラインワークショップ **デジタル版**

マップづくりのテーマを「水害からの安全な避難」とし、気象予報士とコラボして、気象情報や防災情報の読み解き方のコツを伝授してもらいました。そして、その情報をひとりひとりの安全な避難につなげるために、Webで公開されている国土交通省の「重ねるハザードマップ」を使って、オンラインで自分だけの減災マップをつくりました。

複雑な気象情報と防災情報の関係について スッキリ理解できました

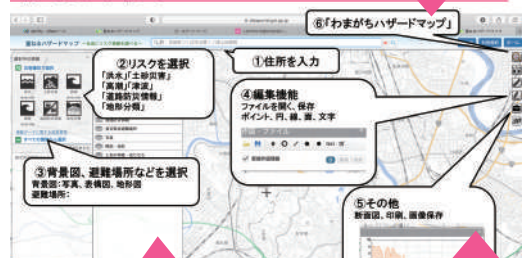
他の参加者からの質問は自分で気が付かなかったことを知る良い機会となりました

国土交通省「重ねるハザードマップ」



画面上の解説がわかりやすかったです

使い方のポイント



他の人が作った地図を見せ合うことで 気づきがあった

さまざまな地域の方が参加されていて、その地域その場所での危険の種類や度合いが違うことを実感できました

マップを実際に使って、情報がすぐに取りれるので スゴいと思いました

自分で操作してみたことで、地域の災害について、より深く興味を持てた

ポイント！

- ① マップをつくった後は、地図をみせあったり感想を言い合っ、 「対話」 することが、災害を「自分のこと」にするコツです。
- ② いろいろな地域の方が同時に参加できるのがオンラインの強み！ いろんな人の話を聞いたり、地図を見ることで気づきを深めることができました。

アレンジ事例1 地域の防災イベント

手描き版 & デジタル版

+ ミニ炊き出し

愛媛県大洲市（協力：大洲Reboot Project 溝の口減災ガールズ）

地図とマジックやシールでつくる手描き版の「my減災マップ」では地域を「虫の目」で、Webマップを使った「重ねるハザードマップ」では地域を「鳥の目」で観察しました。

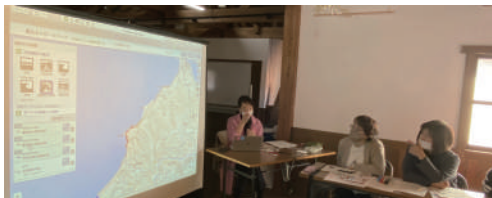
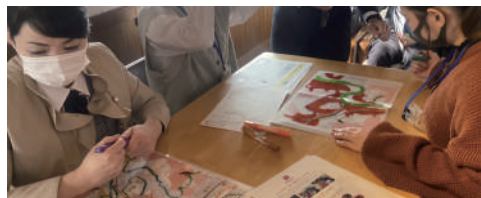
大洲市は西日本豪雨で肱川の大きな水害を経験していますが、雄大で美しい風土とこれからも上手に付き合っていくための視点を、災害時の食事づくりも交えて、楽しく学びました。

若い世代、子供の世代にも
ぜひ広がって欲しいです

とても良かった。
孫たちと作成したいです

改めてハザードマップを見て
どの地域が危ないか確認できた

これを学校でやったらとても良いと
思った、先生たちに伝えて行きます



一度に幾つかの災害がわかり、
便利だと思った

自宅の意外な土地条件が
わかったので良かった

大人も楽しくマップ作りができた。
勉強にもなったし、ぜひ、我が子にも経験させたい。

ポイント！

手描き版とデジタル版の両方を使ってみることで、新しい気づきがありました。また、災害時の「食」を通じた防災イベントとコラボすることで、より楽しく防災を学ぶきっかけをつくることができました。

アレンジ事例2 小学校の防災授業

手描き版 & デジタル版

山形県中山町（協力：減災Days）

手描き版の「my減災マップ」で学校生活範囲のハザードや防災に役立つ資源などを知り、デジタル版の「重ねるハザードマップ」で広域的な減災の備えを考える必要性を学びました。



うち、洪水が起きたらすぐ水がくるじゃん！
ヤバイ！うちの人に教えないと！

町の中には水路が
沢山あってびっくりした！

災害が起こったときのことや、
起こったときのために何をするかについて
学ぶことへの興味が深まった！

怖いこと危ないこと逃げれる場所などを知れて良かった！
授業の前よりも防災を意識することが出来た！

まさか町中にこんなに水が
広がるなんて思っていなかった！

もっと災害に役立つことを、
もっと知りたい！



子どもだけではなく、
大人にも役立つものと思った

子どもと防災の話が出来る
きっかけとなった

親も、子どもも前よりも
防災意識が高まった

ポイント！

家庭に持って帰れる手描き版「my減災マップ」を通じて、家庭での減災の対話を持つきっかけづくりになりました。また、先生方にとっても、地域の防災をより深く考えるきっかけになりました。



詳細はWEB
でも！

減災ラボ



Supported by
日本財団
THE NIPPON
FOUNDATION

このプログラムは日本財団「2020年度新型コロナウイルス感染症に伴う社会活動支援」助成事業として実施しました

(事業名：減災マップオンラインプログラムの構築と実践による地域防災力の向上 (covid19変える))

my 減災マップ



2022年3月作成 一般社団法人減災ラボ info@gensai-lab.com